

外為マンスリーレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/12/05

南半球でも「政治」に焦点

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↑	下げ止まりから反発の目 予想レンジ: 84.000~88.000円	2-3
NZドル/円	↓	新政権への根強い不安 予想レンジ: 74.700~79.800円	4-5
ランド/円	↓	次期大統領は誰に？ 予想レンジ: 7.900~8.500円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



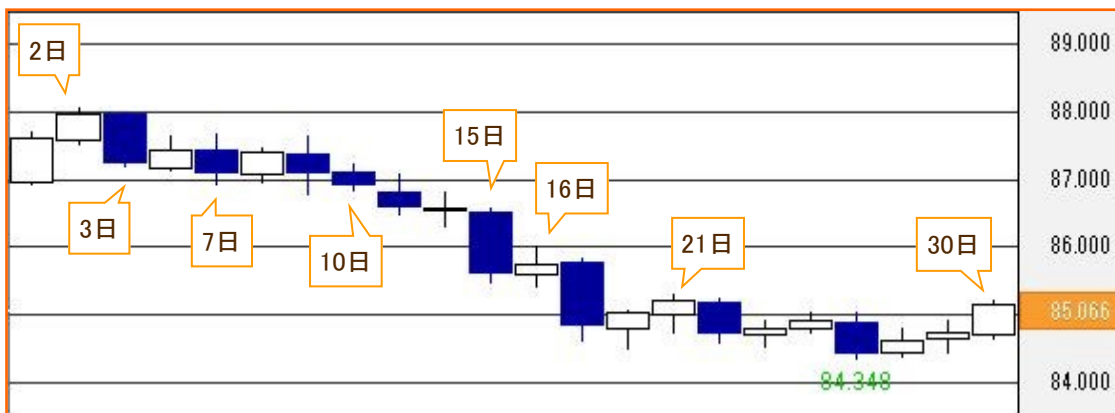
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 11月の推移

AUD/JPY

11月の豪ドル/円相場は84.348～88.086円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.1%の下落(豪ドル安・円高)となった。賃金上昇の鈍さなどから豪州のインフレ鈍化観測が広がる中、豪中銀(RBA)による利上げ時期が後ずれするとの見方が広がった。中旬以降に中国上海株が値崩れを起こし、3カ月ぶりの安値に沈んだ事で中国景気の減速にも懸念が及んだ。こうした点が豪ドルの重しとなり、27日には約5カ月ぶりに84.348円の安値まで下落した。しかし、月末にかけては、一時調整含みとなっていた主要先進国の株価が再び上昇した事などから下げ渋った。



四本値

OPEN	86.974
HIGH	88.086
LOW	84.348
CLOSE	85.151

2日	豪9月貿易収支が17.45億豪ドルの黒字となり黒字額が予想(12.00億豪ドル)を上回った上に、豪9月住宅建設許可件数は前月比+1.5%と、予想(-1.0%)に反して増加した。これらを受けて豪ドル買いが強まった。
3日	豪9月小売売上高が前月比±0.0%と市場予想(+0.4%)を下回ると豪ドル売りが優勢となった。
7日	RBAは予想通りに政策金利(1.50%)据え置きを発表。「むこう数年で経済成長は年率3%になる見通し」「経済成長の加速につれてインフレが徐々に上昇していくと予想」などと、景気やインフレに関する見通しも変えなかった。7-9月期のインフレ率が鈍化した事などからRBAがハト派寄りの姿勢に傾いてもおかしくないとの見方もあったが、声明のトーンが前回と同じだった事から一時豪ドル買いが優勢となった。
10日	RBAが四半期金融政策報告を公表。基調インフレ率の見通しについて、目標レンジ(年2~3%)の下限に達するのは2019年初め以降と、8月時点(2017年下期)から先送りした。また、2018年央の経済成長率(GDP)見通しは2.75%と、当初予想(3.00%)から引き下げた。これらに反応して一時豪ドル売りが強まる場面があった。
15日	豪7-9月期賃金指数が前期比+0.5%、前年比+2.0%となり、市場予想(+0.7%、+2.2%)を下回ると、低インフレ長期化への警戒感が広がり、豪長期金利の低下とともに豪ドル売りが活発化した。
16日	豪10月雇用統計は、失業率が5.4%と予想(5.5%)より良好だった一方、就業者数は0.37万人増と予想(1.88万人増)に届かなかった。豪ドル/円は就業者数に反応して85.425円まで下落したが、就業者数の内訳で正規雇用者が2.43万人増加(前月は0.93万人増)していた事が判明すると買戻しが入り85.90円台に反発するなど乱高下した。
21日	RBA議事録で「賃金圧力に相当な不透明感」「第3四半期の消費の伸びは第2四半期を下回る公算」「小売業の競争など多くの要因で、インフレの波及が遅れる可能性」「世界的な賃金の伸び悩みについて議論」などと、低インフレへの警戒感を滲ませた事が豪ドル売りを誘った。しかし、その後、ロウRBA総裁が「政策金利の次の動きは引き上げの可能性がより高い」と発言した事を受けて買戻しが入った。ただ、総裁は「短期的に金利を調整する強い根拠はない」との見解も示した。
30日	豪10月住宅建設許可件数が前月比+0.9%と、予想(-1.0%)に反して増加した事や、中国11月製造業PMIが51.8と市場予想(51.4)を上回った事から豪ドル買いが優勢となった。なお、豪7-9月期民間設備投資は前期比+1.0%と予想通りの伸びを示した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	22144.92
HIGH	23382.15
LOW	21972.34
CLOSE	22724.96

NYダウ平均

OPEN	23442.90
HIGH	24327.82
LOW	23242.75
CLOSE	24272.35

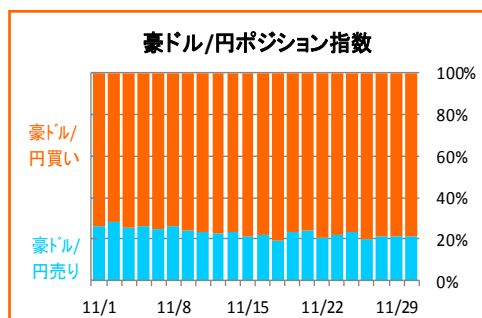
上海総合指数

OPEN	3393.968
HIGH	3450.495
LOW	3300.781
CLOSE	3317.188

豪10年債利回

OPEN	2.693%
HIGH	2.708%
LOW	2.468%
CLOSE	2.499%

11月のポジション動向



12月の豪州・中国の注目材料

- ・10月豪小売売上高(5日)
- ・7-9月期豪経常収支(5日)
- ・RBA政策金利発表(5日)
- ・7-9月期豪GDP(6日)
- ・10月豪貿易収支(7日)
- ・11月中国貿易収支(8日)
- ・10月豪住宅ローン件数(8日)
- ・11月中国消費者物価指数(9日)
- ・11月豪雇用統計(14日)
- ・11月中国鋳工業生産(14日)
- ・RBA議事録(19日)

12月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

11月の豪ドル安については、豪中銀(RBA)の将来的な利上げへの期待が後退した事が最大の要因だろう。来年8月までに0.25%の利上げが行われる確率は11月1日時点で6割弱であったが、本日(12月5日)時点では3割5分まで低下している(豪金利デリバティブ市場における利上げの織り込み度合い)。もっとも、RBA総裁が「次の一手は利上げになる可能性が高い」と公言しているだけに、これ以上の利上げ後ずれ観測は高まりにくくなりそうだ。また政治面では、12月2日に実施された下院補欠選挙にて、二重国籍問題で失職していたジョイス元副首相が復職を果たした。与党保守連合はこれで下院過半数の議席を取り戻した形となり、ターンブル政権への逆風が収まりつつある。こうした中、豪ドル/円は84円台で底入れの兆しを見せている。中国の景気動向や米国のロシアゲート疑惑、さらには北朝鮮情勢などに対しては引き続き注意を要するが、いずれも深刻化しなければ、少なくとも87円台(9月に付けた年初来高値から11月に付けた安値への下落幅の半値戻しが87.30円前後、61.8%戻しが88.00円前後)までの反発余地があると見る。(神田)

(予想レンジ: 84.000-88.000円)

NZドル/円 11月の推移

NZD/JPY

11月のNZドル/円相場は76.077～79.457円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.1%の下落(NZドル安・円高)となった。

月初こそ良好なNZの雇用状況などを好感したNZドル買いが出るも一時的となり、その後はNZ新政権に対する不透明感を嫌気して下落。また、新政権が発表したNZ中銀(RBNZ)改革案で、金融政策決定において合議制を導入する事や、今までのインフレに加えて雇用についても金融政策の目標とする事などを発表している。利上げ実施のハードルが上がるとの見方や、中銀の独立性が脅かされるとの見方がNZドル相場の重しとなり、20日に76.00円台まで下落。その後の戻りも77円台前半までと上値の重さが見られた。



四本値

OPEN	77.779
HIGH	79.457
LOW	76.077
CLOSE	76.901

1日	NZ7-9月期失業率が4.6%(予想:4.7%)と2008年10-12月期(4.4%)以来の低水準となった。労働参加率は71.1%、就業者数は前期比2.2%、平均賃金は前期比+1.2%(予想:70.2%、+0.8%、+1.1%)と、総じて強い結果であった。これを受けてNZドル買いが強まった。
6日	RBNZが公表した10-12月期の2年先のインフレ予想が2.02%と、7-9月期(2.09%)から低下した事が、NZドルの重しとなった。
7日	NZ政府がRBNZ改革案を公表。中銀の使命に雇用最大化を加えたほか、政策決定に委員会方式を導入することなどが盛り込まれた。ただ、一部で懸念されていたNZドル相場の目標設定についての言及がなかった事から、NZドル買いで反応した。
8日	RBNZは政策金利の据え置き(1.75%)を決定。声明で新政権の政策による影響は「不透明」としながらも、次回利上げ見通しを2019年4-6月期と従来(同年7-9月期)より前倒した事から、発表直後にNZドルは強含んだ。
17日	米税制改革法案の年内通過は困難との見方を背景にNYダウ平均が下落した事が重しとなり、NZドル/円は76.20円前後まで下落した。
22日	本邦3連休前のポジション調整などから日経平均が軟調に推移する中、NZドル/円は下落した。なお、NZ7-9月期小売売上高は前期比+0.2%と予想(+0.1%)をわずかに上回ったが、前回(+1.7%→+1.8%に修正)と比べ大幅に伸びが鈍化した。
23日	NZ10月貿易収支は8.71億NZドルの赤字(予想:7.60億NZドルの赤字)となった。
30日	NZ11月ANZ企業景況感が-39.3と前月(-10.1)から大幅に悪化し、2009年以来の低水準となった事を嫌気して、NZドル/円は76.50円台まで下落。ただ、その後は米共和党のマケイン上院議員が、上院の税制改革法案の支持を表明した事を受けて法案の年内成立期待が高まり、米国株が上昇した事などから、下げ幅を縮小した。

NZD/JPY

日 経 平 均

OPEN	22144.92
HIGH	23382.15
LOW	21972.34
CLOSE	22724.96

NYダウ平均

OPEN	23442.90
HIGH	24327.82
LOW	23242.75
CLOSE	24272.35

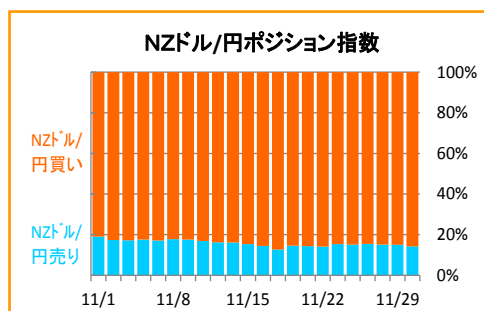
上海総合指数

OPEN	3393.968
HIGH	3450.495
LOW	3300.781
CLOSE	3317.188

NZ10年債利回り

OPEN	2.913%
HIGH	2.970%
LOW	2.716%
CLOSE	2.716%

11月のポジション動向



12月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(5日、19日)
- ・10月NZ企業景況感(PMI、16日)
- ・11月NZ貿易収支(19日)
- ・7-9月期NZGDP(20日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

12月の見通し

NZドル/円相場は、今月も国内に不透明要素が多そう。まず政局について、新首相のアーダーン氏は37歳と若い上に、閣僚経験がなく政治的実力は未知数である。NZ中銀(RBNZ)改革についても、実行はこれからである。また、RBNZ総裁人事についても不透明感が漂っている。現在はスペンサー前副総裁が2018年3月まで総裁代行を務めており、新政権の意向に沿った次期総裁にバトンタッチするまでの間は、機動的な金融政策運営は期待しづらい。今月も引き続き、NZ国内の政局に注意が必要だろう。

テクニカル面では、76円台半ばに位置していた週足の一目均衡表の雲下限を割るも一時的となり、本稿執筆時点では雲の中で推移している。月足も雲の中で推移しており、両方の雲を上下どちらに抜けるかが、今後の動きを読む上で重要となろう。現在の立ち位置を考慮すると、引き続き下値が意識されやすいと見る。週足の一目均衡表の雲を明確に割り込むようならば、月足の雲下限(今月は75.516円)下抜けを試す可能性が高まりそう。(川畑)

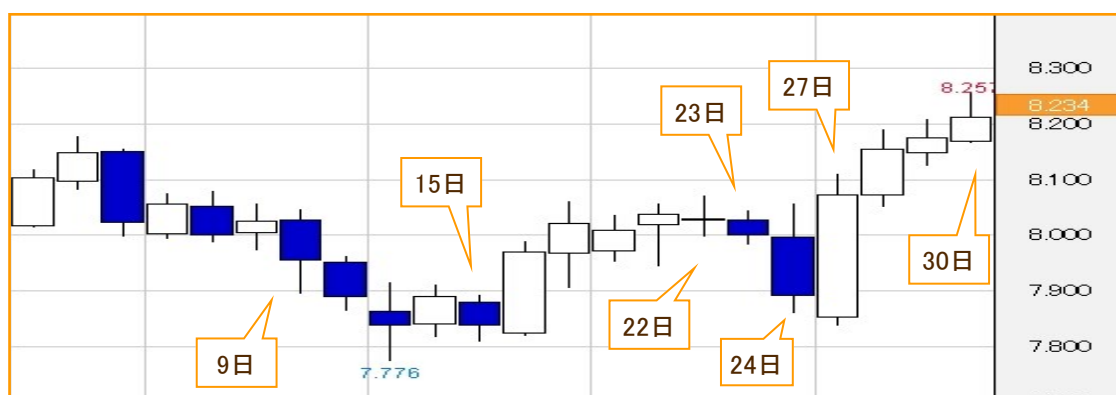
(予想レンジ: 74.700~79.800円)

ZAR/JPY

ランド/円 11月の推移

11月のランド/円相場は7.776～8.257円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.2%の上昇(ランド高・円安)となった。

10月に南アフリカが予算演説で成長鈍化と政府債務拡大見通しを示した事に端を発する格下げ懸念が重しとなり、ランド/円は軟調に推移。9日にズマ大統領が発表した高等教育無償化についても財政赤字を一段と悪化させる恐れから下落。13日に2016年11月以来の安値となる7.70円台まで一段安となった。ただ、24日に複数の格付け会社が同国の格付けについて発表し、1社は引き下げなかったことから、市場が懸念していた世界国債インデックス(WGBI)からの除外というリスクシナリオは、ひとまず回避された。これを受けてランド買戻しが優勢となると、米税制改革案の上院通過期待を背景とする米株高も追い風となり、30日に8.20円台まで反発した。



四本値

OPEN	8.018
HIGH	8.257
LOW	7.776
CLOSE	8.213

9日	ズマ大統領が高等教育の無償化を発表。しかし、厳しい財政の中で更なる重しになると解されて格下げが懸念され、ランド売りが優勢となった。米上院共和党が公表する税制改革法案に法人減税の1年先送りを盛り込んだ事が明らかになり、NYダウ平均が一時250ドル安を超えて下げ幅を拡大した事も重しとなり、ランド/円は7.90円前後まで一段安となった。
15日	南ア9月小売売上高は前年比+5.4%と予想(+4.5%)を上回った。
22日	南ア10月消費者物価指数は、前年比+4.8%と市場予想と一致するも、前月(+5.1%)から伸びが鈍化した。
23日	南ア中銀(SARB)が政策金利の据え置き(6.75%)を発表。前回は据え置きと利下げの票が3:3で割れたが、今回は全会一致の決定であった。経済成長率見通しは2017年が+0.7%と前回(+0.6%)から上方修正されたが、18年は+1.2%、19年は+1.5%と下方修正(前回:+1.3%、+1.7%)された。また、クガニャゴSARB総裁によると、中銀のインフレ予想モデルでは19年末に0.25%の利上げが3回実施されると示唆されている。ただ、翌日の格付け会社S&Pとムーディーズによる格付け見直しを前に反応は限られた。
24日	格付け会社S&Pが南アフリカの現地通貨建て債券格付けを「BBBマイナス」から投機的等級(ジャンク級)となる「BBプラス」に引き下げた(見通しは安定的)。これを嫌気してランド/円は7.80円台まで下落した。ただ、その後格付け会社ムーディーズは格付けの据え置き(見通しはネガティブに引き下げ)を発表したため下げ渋った。
27日	24日にムーディーズが格付けを据え置いたため、「両社格下げにより世界国債インデックス(WGBI)から除外される」という市場が懸念していたシナリオは回避された。これを受けランド買いが優勢となった。
30日	米税制改革案の上院通過への期待を背景として米国株が上昇すると、ランド/円は8.20円台まで上昇。南ア10月貿易収支は46億ランドの黒字(予想:55億ランドの赤字)となった事も追い風となった。

日 経 平 均

OPEN	22144.92
HIGH	23382.15
LOW	21972.34
CLOSE	22724.96

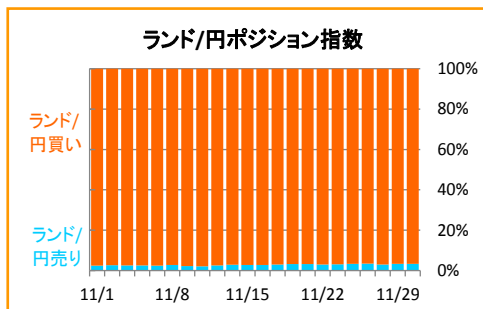
NYダウ平均

OPEN	23442.90
HIGH	24327.82
LOW	23242.75
CLOSE	24272.35

N Y 金

OPEN	1271.80
HIGH	1303.40
LOW	1265.90
CLOSE	1276.70

11月のポジション動向



12月の南アフリカの注目材料

- ・7-9月南アGDP(5日)
- ・11月南ア消費者物価指数(13日)
- ・10月南ア小売売上高(13日)
- ・7-9月期南ア経常収支(14日)
- ・11月南ア生産者物価指数(14日)
- ・ANC党首選(16-20日)
- ・11月南ア貿易収支(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

12月の見通し

ランド/円相場は、「格付け会社の格下げにより世界国債インデックス(WGBI)から除外され、それに伴って機関投資家からの南ア国債売りが出る事でランド相場に下落圧力が掛かる」という最悪のシナリオを回避した。もっとも、今回据え置きを発表したムーディーズは「現在の南アの格付け(Baa3)を引き下げ方向で見直す」と発表しており、次回2月に予定されている格付け見直しで格下げとなるリスクがある。今後もランド相場のリスク要因としてくすぶり続けるだろう。

もっとも、市場の関心は16-20日に予定されている与党・南アフリカ民族会議(ANC)の党首選に集まっている。次期党首が大統領と目されるため、要注目である。従来予想ではズマ大統領の元妻であり、最大部族ズルー族の出身であるヌコサザナ・ドラミニ・ズマ氏が優勢であったが、ここにきて改革派と目されるラマポーサ副大統領が盛り返している。市場では、仮にヌコサザナ氏が勝利するとランド安、ラマポーサ氏が勝利するとランド高の反応が予想されている。先月に隣国ジンバブエで発生したクーデターは身内への権力移譲が引き金であり、その姿が南アと重なった事も一因だろう。党首選期間中は神経質な値動きとなる恐れがあるので注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 7.900~8.500円)